

今の当たり前を大事にすることの大切さを感じながら生きていくことは、戦争によって亡くなってしまった人たちの分まで生きるという一つの義務だと思った。そして、今日この貴重な体験を通して、生きていて満腹食べられないことが決して当たり前じゃないってことがとても分かったので、今生きることをごんばっていきたい。

(1年生 男子)

私はこの講演を聞き、今まで思っていた“原爆”とは遥かに違っていることを感じました。カメラのフラッシュよりもすごい光、その瞬間に熱い熱い熱風がやってくるとは思っていませんでした。被爆者たちはそんな体験をしたからこそ、「大切な大切な命をなくさないでほしい」と思っていると思うので、この言葉を胸に、むやみに自殺なんかしたくないと思います。

(1年生 女子)

今回の話を聞いて、自分の今までの生活が頭に浮かびました。当たり前のように帰る場所があり、「ただいま～」と言って家のドアを開けると当たり前のようにお母さんがいて弟がいて、当たり前のようにご飯を食べる。「それがもし失ってしまったら・・・」そう思うと一つ一つのものが大切に思え、家族・身内・自分に話しかけてくれる友だち・僕という存在そのものが幸せということが分かりました。

(2年生 男子)

被爆体験の講演を通して感じた平和や幸せ、そして今の私達はとても幸せな人だなと感じました。実物では見ていないけれど、当時の悲惨さがすごく伝わりました。皮膚が全てはがれ落ち、手を挙げないと辛いということは初めて知りました。広島にある原爆ドームは世界遺産に認定されていますが、『負の遺産』という形で登楼されており、より一層戦争というものの影響がすごいんだなと思いました。被爆して亡くなった方々の思いをもちながら、これからを生きていこうと思います。

(2年生 女子)

今までは生きているのが当たり前のように生活してきたけれど、今回の講演を聞いて、近藤さんや僕たちが今生きているのは大切なことで、奇跡のようなことだと思った。いずれ原爆の経験者が亡くなり、人々が原爆への恐怖を忘れてしまうので、僕たちが後世に伝えて、二度とこのようなことが起こらないようにしたいと思った。

(3年生 男子)

今日の話聞いて、改めて命の大切さを感じることができました。現代の人はすぐ『死にたい』ということが多々あるけれど、被爆した方々は生きたくても生きられなかったのだから、一つしかない自分の命を大切にしていきたいと思いました。戦争は今後絶対にしてはいけないものだし、戦争のない世の中を今の時代の人々がつくっていかねばいけないと思いました。心も体もどららも傷つける戦争は恐ろしいもので、このような過ちは二度と繰り返さないように忘れてはいけないことだと感じました。

(3年生 女子)